

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0846鳥取市扇町21番地
東教発 H24.9.4 №.115
http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/

教育活動全体を通して「生き方」を学ぶ ～キャリア教育を一つの柱とした道徳教育の実践～



鳥取市立青谷中学校



青谷中学校は今年度、道徳教育総合支援事業の指定を受け、『生き方を考える学習活動の確立』を研究主題として、夢の実現に向け見通しを持って今を充実して生きる生徒の育成をめざして、授業づくりや学習環境づくりに取り組んでいます。

「青谷中キャリアデザイン」

『18歳の巣立ち』をイメージしながら、生徒が中学校3年間を通じて将来設計できるよう、体験や人との関わりを位置づけて、教育活動を展開しています。

授業づくり

学習環境づくり

生き方につながる道徳教育

- 一人一人の道徳的実践力を高めるために、道徳の時間においては、内面に迫る指導の工夫として、価値観を揺さぶるような**主発問**を用意する。
- 各教科においても主発問を工夫し、考え・判断し・表現する場面を設定する。

心のノートの活用～いつでもどこでも～

- 学校の道徳教育重点項目をもとに、各学年が心のノートの重点的に扱うページを決める。授業で活用するとともに、教室に掲示し、いつでも振り返られるように**環境づくり**を行う。

「生き方を考えよう」講演会

- 青谷町出身の地域の先輩を講師として招き、自身の体験や夢など、生き方について学ぶ。



生徒の感想

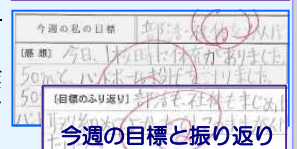
「1日の価値」はとても大きいと思った。毎日の小さなことを積み重ねて、夢の実現に向かって努力していきたい。

夢の実現に向け、目標を立て日々努力する

日々の生活を充実させる実践ノートの工夫

- 実践ノートに、夢を意識づけるメッセージのページを作成した。
- 1週間ごとに自分の**目標を立て、振り返り**を行い、生徒にとって達成感のある生活をめざす。

『夢』とは？『今を充実して生きる』とは？
1 『夢』とは……
君の夢は何ですか？〇〇君、〇〇さんどう
夢とは：将来の自分が（の）目指す姿、生
2 『今を充実して生きる』
今日は良くやっとな〜と自分で満足する時



一人一人が自立するためには、目的意識をもった生活を送り、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力や様々な課題に対応する力を身に付けていくことが必要です。生徒の将来像を真剣に考え、個を伸ばすことを意識しながら授業を計画・実践することは、生徒の生きる力の育成につながります。

教師に求められる細やかな「目」と確かな「腕」

局長 久岡賀代子

夏休みが明け、元気な子どもたちの歓声が学校に帰ってきました。子どもたちの前に立つ節目を迎えるたび、「学級の子ども一人一人に心を配り、目を注ぎ、手を差し伸べる実践を毎日続けることは、たとえ時代が変化しても変わらない教師のあるべき姿である」といつも思います。

道徳教育の取組などで「子どもの良いところ」を見つけていく活動がありますが、子どもたちにとって、自分の良いところを紹介されたり掲示されたりすることは、自己肯定感の向上や次への意欲につながります。しかし、**担任が子どもたちに満遍なく、計画的に関わりを持つ**ことができればプラスに働きますが、一部の子どものみの評価では、かえって逆効果につながることもあります。

斎藤喜博の教職4年目の記録には、次のような一節があります。



「ひとり残らずの児童が毎日はっきりと私の眼のなかに、私の心のなかに、また実際の交渉の上にあるであろうか。ひとりでももれていないか。一部の子どものみ偏してはいないか。（中略）私は、ひとり残らずの児童と、**一 心の、二 ことばの、三 動作の、**いずれにおいて必ず親しく交渉を持たねばならない。」

夏休み前には、いじめが大きな社会問題として連日報道されました。教師の細やかな「目」と確かな「腕」が、いじめの芽を摘み取る鍵になると信じています。

よきよき学級集団づくり、よきよき人間関係づくりのために！

一人一人の子どもたちの状況を把握しながら、きめ細やかな指導を行うことは学級経営の基盤となるものです。教師は、会話や表情・様子、連絡帳や生活ノート等から、子どもたちの心の動きや小さな変化を感じ取る努力をしていますが、学級集団や子どもたちの人間関係を客観的に把握することは容易なことではありません。アンケート調査等によって、客観的に集団の状況を把握することは、よきよき学級集団づくり、人間関係づくりにつながる具体的な取組といえます。

「子どもたちの社会性を育む事業」

今年度、県下10中学校区（東部4校区）をモデル地域として、取り組んでいます。

【ねらい】：人間関係づくりに視点を置いた中学校区での協同的な取組から不登校の未然防止につなげる
 【事業の内容】：hyper-QU調査を年2回実施、対象は全児童生徒
 ・アセスメント(分析・考察)と手立ての実践
 ・連絡協議会の開催（県外講師等による研修）

児童生徒理解

- ・アンケート調査等を行い、児童生徒の学級内での満足度や意欲、学級集団全体の実態を把握する。(心理検査Q-U、hyper-QU等)
- ・分析・考察を行い、児童生徒のクラスや友人に対する感じ方・考え方を確認し、状況に応じた支援・手立てを考える。

つながる体制づくり

- ・定期的に学年会、小中連絡会等で多面的にアンケート結果を分析し、よきよき学級生活や友達づくりができるための手立てを考える。
- ・共通理解が必要な児童生徒に対しての具体的な支援や、学級・学年で取り組む対応策を決める。

安心してすごせる学級づくり

【日常的な支援】

- ・配慮を要する子ども(要支援群)に対するプラスの声かけや、ほめる言葉かけをする。
- ・子どもと話し合いながら、学級のルールづくりをする。

【特別活動の工夫】

- ・子どもの思いを実現した学級集会を行う。

今後、いじめの未然防止に向けて、hyper-QU調査を全学校で実施する計画が打ち出されています。

アンケート調査等を行えば、不登校やいじめ問題の未然防止ができるわけではありません。調査から見えてくることを学級経営や一人一人の安心感にどうつなぐのかわ…、大切なのは先生方の調査に関する理解と子どもたちを取り巻く環境を整えようとする思いです。分析結果を1つの学級だけの問題として捉えず、学校全体がチームとなって、よきよき学級集団づくり・よきよき人間関係づくりに取り組むことが大事です。

学事コーナー

毅然とした中でも、配慮を尽くした教育的愛情のある指導を！

いじめをはじめとする児童生徒の問題行動がクローズアップされ、大きな社会問題として取り上げられています。いじめなどの問題行動は依然として深刻な状況にあります。が、問題行動に直面したとき、先生方はどのような対応をとっていますか。



教育基本法第6条第2項には、教育の目標を達成するために「教育を受けるものが、学校生活を営む上で必要な規律を重んずる」ことが明記されています。

児童生徒が学校の利用関係の規律に違反した場合で、教育上必要があると認める場合、児童生徒の自己教育力や規範意識の育成を期待し、厳しく指導することは必要です。時には学校教育法第11条で規定されている懲戒を加えることも考えなくてはならない場合もあります。

しかし、体罰はいかなる場合においても行ってはなりません。けがを負わせた場合には傷害事件として立件されることもあり、児童生徒に与える影響、学校や教育活動に向けられる不信も計り知れません。

教育に対する情熱や使命感があればこそ、児童生徒の安心・安全のため、児童生徒の将来のために、しっかりと指導をする必要があります。特に、いじめなどの問題行動に対しては毅然とした指導が必要です。しかし、それは一時の感情に支配されて、安易な判断のもとで行われるものではなく、日々の、配慮を尽くした教育的愛情のある指導を重ねる中で、子どもや保護者との信頼関係を築いていくことを根拠にした指導でなければなりません。

そして、厳しく指導した場合には、その子どもへの配慮、保護者への連絡、管理職への報告等、その後の対応もていねいに行うことが必要です。

社会教育コーナー

8月7日(火) 東部教育局主催ワークショップ

魅力ある懇談会の持ち方・進め方 『参加型保護者会』

昨年度に引き続き『参加型保護者会』のワークショップを開催しました。「より多くの保護者に参加してほしい。」「保護者と本音で話し合いたい。」など、様々な思いをお持ちの先生方が集まり、学校と保護者、保護者同士のより良い関係づくりをねらいとした『参加型保護者会』の模擬体験等を通して研修を深めました。

模擬体験「初めての6年おしゃべりサロン」

導入

アイスブレイク

- ①話し合う課題（テーマ）を簡単に紹介する。
- ②アイスブレイク
 - ・後出しジャンケン
 - ・バースデイライン
 - ・肩たたき
 - ・グルーピング（4人一組）
 - ・自己紹介（忘れられない夏休みの思い出）

参加者の感想：アイスブレイクで心をほぐすことで、初めて会った人とも話しやすくなりました。



【ポイント】
和やかな雰囲気をつくる

展開

メインの活動・ロールプレイ例 「こんな時、なんて言う？」

- ①友達とけんかをした子どもと、わが子に寄り添えない母親との役割劇を観て、わが子や友達の気持ちを考える。
- ②わが子が上手に関わっていくことができるような言葉かけをグループで話し合い、ロールプレイのシナリオ（親子のやりとり）を作る。
- ③グループごとに作ったシナリオをもとにロールプレイを発表し、子どもに大切にしてほしいことについて、全体で意見交換をする。

参加者の感想：参加した保護者（先生方）の気持ちをもっと聞いてみたいと思いました。

【ポイント】

課題（テーマ）に対する話し合いや全体の意見交換により、保護者から気づきが出てくるようにする



まとめ

話し合いをまとめる

【ポイント】

保護者の意見をまとめたり、担任としての思いを話したりして、家庭と学校が共に取り組んでいくことを確認する



※「魅力ある懇談会」にするためには、どうしたらよいでしょう。

これがポイント

- ・ 教師と保護者、保護者同士が **つながる場** となるような工夫を行う。
- ・ 参加した保護者が **受動的** ではなく **主体的に参加できる場** となるような内容を考える。
- ・ 教師と保護者が子どもの成長を感じられる **学びの場** となるように工夫を行う。

学年・学級懇談会を充実させるための工夫例

<事前の準備>

- ・ **アンケート**：保護者の悩みやニーズを把握し課題（テーマ）を決定する
- ・ **案内文の様式**：懇談会の内容を短い言葉で分かりやすく説明する
- ・ **会場づくり**：花、音楽、作品展示等参加者が落ち着く空間づくりを行う

<話し合いがしやすくなるテーマの工夫>

- ・ 「〇年生、今年の成長の軌跡 輝く10の光」
⇒ **子どもたちの成長を見取るテーマ**
- ・ 「嬉しかった子育てのあんな時、あんなこと」
⇒ **子育て中の保護者の元気が出るテーマ**
- ・ 「宿題のやる気アップ」～親としての声のかけ方～
⇒ **家庭で役立つテーマ**

<運営の工夫>

- ・ 手作りの名札：通年使用できるものを作成する
- ・ 「参加」「尊重」「守秘」の確認：参加者の自己開示を促すきっかけづくりを行う

- 「参加」… 積極的に参加しましょう。
- 「尊重」… 参加者一人一人の考えを尊重しましょう。
- 「守秘」… 参加者の個人的な情報は守りましょう。

- ・ **アイスブレイク**：参加者の出会いの頻度（初めての場合・2、3回目の場合）や時期（季節、学期）により、効果的な内容を検討して行う
- ・ 「展開」で行うメインの活動：保護者のニーズに合わせて取り組む活動を選択する

活動の例：ブレインストーミング（発想法）
ロールプレイ（役割劇） KJ法（分類法）
ランキング（重要と考える順に順位づけする）
4つのコーナー（自分で考え四者択一する）等

保護者のニーズに沿ったテーマと、様々な工夫を加えて会を運営し、保護者が参加して良かったと思える懇談会を増やしていきたいですね。各学校の要望に応じて出前研修も行います。また、アイスブレイクやメインの活動について情報や資料等が必要な場合は、ぜひ東部教育局までご連絡ください。

子どもたちが主体的に学ぶ授業づくり part1

【ポイント】

- ① めざす子どもの姿を明確にし、ワクワク感のあるめあてを仕組む。
- ② 言語活動の充実を図った学習活動を展開する。
- ③ めあてに対する振り返りを位置づける。

子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりには、上に示したポイント①～③が大切です。今回は①を中心に考えてみましょう。めあては、本時1時間の見通しを持つためのしかけです。学習課題を解決していくための手がかりをつかむことで、「できそう。」「こうやったらどうかな。」という意欲が高まります。おもちゃ箱を開ける時のようなワクワク感のあるめあてを工夫したいものです。何をどんなふうに提示し、めあてを持たせるか、知恵のしぼりどころと言えます。

めあてにひと工夫！

【小学校6年家庭科】 「朝食を考えよう」

例えば

ねらい : 簡単に栄養バランスがとれ、家族のふれ合いを深めるための朝食献立を考えることができる。

【例1】教科書の見出しそのままのもの
めあて **栄養を考えた朝食にしよう**

- C 「栄養のあるものってなんだろう。」
- C 「野菜をいっぱい使うといいのかな。」
- C 「体をつくるもとになる食品を使ったメニューってどんなものがあるだろう。」
- C 「栄養のバランスのよい朝食だと、作るのが難しそうだな。」

【例1】のめあてでは、栄養という言葉にとらわれて、本時の学習でねらいたい「簡単にできて栄養のバランスが取れ、家族とふれ合うことができる朝食を考える」ことが難しくなってしまう。さらに、生活で実践してみようという意欲まではつながりにくくなってしまう。

【例2】めあてに工夫を加えたもの
めあて **家族が元気もりもりになる朝食メニューを考えよう**

- C 「にんじんの苦手な弟のために、この前学習したいり卵ににんじんを入れてはどうか。」
- C 「いつも忙しいお母さんのために、お母さんの好きな納豆を使って、栄養たっぷりの野菜いため納豆どんぶりにしよう。」
- C 「ホットプレートを使って、家族みんなで好きなものを焼いて食べると、簡単に楽しい朝食になりそうだな。」

【例2】のめあてを示すことで、子どもたちはそれまでに学習した知識や技能を使って、家族が元気になるためのメニューを家族の顔を思い浮かべながら考えます。そして「今度の休みにやってみようかな。」という実践への意欲が高まります。

めあてを工夫することで子どもたちの学習する姿のイメージもずいぶん変わってくるのが分かります。授業づくりは、教師のイメージ力が大切です。めざす子どもたちの姿を思い浮かべながら、子どもたちが意欲を持って学ぶためのめあてにこだわりたいものです。

授業の構想

- 1 教科の目標
- 2 子どもの実態
- 3 ねらい (本時でめざす子どもの姿)
- 4 **ひと工夫しためあて**

- 5 中心となる学習活動
 - ・ゴールに向かうための言語活動の充実
 - ・思考・判断・表現

- 6 振り返り
 - ・めざす子どもの姿としてのゴールイメージ
 - ・めあてに対する振り返り
(自分の変容・成長、学びの実感、次時への意欲)

めあてを意識した振り返りを！

子どもたちが本時のめあてをつかみ、学習の見通しを持つことで主体的な学びが生まれます。そして、めあてに対する振り返りを位置づけることが子どもたち一人一人の達成感や満足感につながっていきます。



振り返りは、教師が子どもたちの学びを見取るためのものだけでなく、子どもたちが自らの学びを確かめ、生まれた疑問を次時への意欲につなげるために位置づけられるものでもあります。そのポイントは、めあてに対する振り返りであることです。

